

創立40周年記念誌



40年のあゆみ

創立40周年記念誌

40年のあゆみ



み



愛川町文化協会



2015年
愛川町文化協会

目 次

会長挨拶 愛川町文化協会会長	高橋 篤則	2
祝 辞 愛川町長	小野澤 豊	3
愛川町議会議長	鳥羽 清	4
愛川町教育委員会教育長	熊坂 直美	5
40年のあゆみ		6
Memories of Culture festival		16
加盟団体紹介		
みなかみ短歌会		20
愛川町写真クラブ		22
スリーエークラブ		24
愛川水石奇木会		26
愛川町吟詠連盟		28
愛川町囲碁連盟		30
愛川町民謡協会		32
愛川さつき会		34
愛川華道協会		36
愛川町舞踊協会		38
愛川町将棋愛好会		40
愛琴会		42
愛川町書道同好会		44
愛川町歌謡協会		46
愛川茶道協会		48
マジック愛川クラブ		50
愛川ばら会		52
神奈川ふだん記		54
愛川町押花協会		56
よさこいダンスチームFunny		58
愛川町文化協会規約		60
愛川町文化協会役員名簿		62

ごあいさつ



愛川町文化協会会長 高橋 篤 則

一口に40周年と簡単に言うものでありますが、40年は『論語』で言う不惑にあたります。まだまだ若いと感じながらも、皆様の多くの御助力により、文化協会が組織として成熟し、町民文化の振興を目的とする確固たる信念を持つ団体として存立したことに、節目の年の当事者として、ただただ畏まるばかりであります。

当会が設立したのは昭和50年11月でした。設立目的は、町唯一の文化協会として、文化団体相互の連絡協調、町民の健全なる文化教養の向上とその振興、発展を期し、もって町民文化に寄与することでありました。以来40年間、設立当初の9団体から、新規団体の加盟があったり、様々な理由により加盟団体の脱退があったりしながら、今日の20団体、構成員1,000余名となりました。近年では、ふるさとまつりへの参加、友好都市立科町文化展への参加、広報誌「文化協会だより」発行など、加盟団体の活動の充実に重点を置きつつ、広く一般の方々と交流する機会を作ることに力を入れております。

本会の活動には、町の多年に渡る大きな継続的支援があり、これに、歴代の役員をはじめとする会員の努力、更には各団体の理解と交流の深まりを加え、お互いの力を結集した自主的な組織へと発展してきたものであり、誠に御同慶のいたりに堪えません。

さて、本年度の当会行事の中で、記念行事である「能の鑑賞」を扱った講演会は、将来的に飛躍する可能性を感じております。この事業が一つのきっかけとなり、将来の町の文化振興に寄与していくものと期待しております。

今後とも、皆々様の温かい御支援、御協力をいただき、50周年、60周年と、益々本会が発展していきますよう、後輩の発掘・育成にも力を入れ、努力をしていく所存でございます。

終わりに皆様方の御健勝と御発展を祈念申し上げ、あいさつとさせていただきます。

お祝いのことば



愛川町長 小野 澤 豊

愛川町文化協会が創立40周年という記念すべき年を迎えられ、ここに記念誌が発刊されますことは誠に意義深く、心からお喜び申し上げます。

貴協会におかれましては、文化・芸術をこよなく愛する人々の大きな期待の下、昭和50年11月に設立されて以来、文化講演会や文化展・芸能発表会の開催をはじめ、ふるさとまつりへの参加や友好都市立科町文化展への出展など、幅広い活動を通じて町民の文化・芸術活動の充実に多大な貢献をされていられることに対し、心から感謝申し上げます。

また、今日の御隆盛を築かれた歴代役員をはじめ関係者各位に敬意を表する次第であります。

近年、価値観の変化や社会生活のスピード化など、めまぐるしく変化する社会環境の中であって、心の「やすらぎ」や「癒し」が求められています。

こうした社会にあって、文化・芸術は、生活にゆとりや活気をもたらすとともに、新たな課題に挑戦する人間の創造力の源泉となります。また、安全・安心な社会を構築するためには、生きる力や豊かな人間性の育み、人や地域との連帯を築く文化・芸術の力が非常に大切であるといわれています。

幸い、人の命の息吹を与えるものが愛川の山河にはあります。その最大の理由は、水や緑にみなぎる生命力であり、大地の豊穡であり、その豊穡に寄り添った人々の温かさであります。本町の生命力とも言うべき花鳥風月の素晴らしさと、地域が脈々と育ててきた文化を後世の人々に伝えていくことが、今を生きる私たちに課せられた使命であろうと思っています。

町といたしましては、時勢に対応した事業を展開しながら、文化の薫り高い、豊かな人間性を育む文化のまちづくりに向け、引き続き努力をしまる所存でありますので、今後とも、貴協会の皆様方には、なお一層の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、このたびの40周年を契機に、貴協会の更なる御発展と会員皆様の御健勝をお祈り申し上げまして、お祝いのことばといたします。

文化協会創立40周年を祝して



愛川町議会議長 鳥羽 清

愛川町文化協会の創立40周年を心からお祝い申し上げます。そして、ここに記念誌を発行されますこと大変おめでとうございます。

昭和50年11月の創立以来、40年の長きにわたり町の文化芸術の中心として数々の活動を続けられ、様々な分野にわたる地域文化の振興に大きな役割を果たされたこと、改めて感謝を申し上げます。

貴協会は、文化芸術の発信拠点である町文化会館や半原・中津公民館を中心に、これまで舞踊、音楽、写真、美術などの多岐にわたるジャンルにおいて、関係団体・グループや地域の皆様と連携しながら多彩な町民文化の創造に寄与されてこられました。また毎年ふるさとまつりには、文化作品展示会の開催とともに、芸能発表会を実施されていることは町民の心を豊かにし、生活に潤いを与えてくれるものと存じます。

このように長きにわたり文化の振興と発展に向けられた活動は、皆様の熱い思いであると存じておりますし、これからも文化芸術活動のリーダーとして、末長く地域に根ざした取り組みと活動をお願い申し上げる次第であります。

愛川町は、本年、新町発足60周年を迎えました。町議会といたしましても地域文化に関する理解と関心が、今後とも一層深まるよう、また文化活動に携わる方々が活動しやすい環境づくりに町当局と一丸となって努めてまいり所存であります。

どうか皆様におかれましては、町の特色を活かした香り高い文化のまちづくりへの取り組みがそれぞれの地域に大きく広がり、愛川の魅力として内外に発信されていくことを大いに期待しています。

結びに、愛川町文化協会のますますのご発展と会員皆様のご活躍を心から祈念申し上げ、町議会を代表してのお祝いの言葉といたします。

愛川町文化協会創立40周年を祝して



愛川町教育委員会教育長 熊坂直美

愛川町文化協会が創立40周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

昭和50年に9つの文化団体の参加により協会が創立されて以来、歴代役員の方々や関係者の皆様のご尽力によりまして町民の文化活動推進の中核として協会が発展され、これまで本町の文化の振興・推進に多大なご支援・ご協力いただいておりますことに対しまして、深く敬意を表するとともに厚く感謝いたします。

人生80年の時代を迎え、生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営むことが求められています。健康で豊かな生活を営むためには、生涯にわたって学び続けることが必要であります。今後も今まで以上に町民皆さんには、自己の年齢や適正に応じて、文化に親しむことや関心を持っていただくことが大切であると考えております。今年、町では新しい試みとして若者に音楽に親しんでもらうためのきっかけ作りとして、参加者自らが企画し会を運営する手作りの「若者たちの音楽祭」を計画したところです。音楽に親しむことを通して若者たちの文化への関心の深まりや活動が活発になることを期待いたしております。協会の皆様には若者たちの活動を側面からご支援いただくとともに、温かく見守っていただきたいと存じます。

本協会におかれましては、現在は20団体が加盟され活発に活動を展開しておられ、特に、ふるさとまつりでは、加盟団体すべての参加の元「文化芸能発表会」や「文化展」などを開催され、数多くの町民が文化のすばらしさを堪能させていただいています。また、多くの団体が発表会を自主的に開催されており、私も文化のすばらしさを味わわせていただいております。創立40周年という節目を迎えられ、これを契機に町民の文化教養の向上と振興、発展に一層寄与されますことをご期待申し上げます。

結びに、愛川町文化協会並びに加盟団体のますますの充実・発展と会員皆様方のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

40年のあゆみ

〔はじめに〕

愛川町文化協会は1975（昭和50）年11月に結成し、加盟団体の入れ替わりがありながらも、価値観の多様化した今日まで存続し、40周年を迎えることができました。「40年のあゆみ」では、結成前夜まで遡り、歴代の会員が築き上げた協会の軌跡をたどります。

〔結成前夜〕

愛川町で文化団体による文化祭あるいは文化展といわれるものが開催されたのは、戦後の青年団活動等を別にすると、1971（昭和46）年頃からであったようです。資料によると、町教育委員会の呼びかけに、当時既に活動を展開していた愛川町盆栽会、みなかみ短歌会、スリーエークラブ（絵画）、愛川山岳会、愛川町写真クラブ、愛川ハムクラブ（アマチュア無線）の6団体が応じ、このほか、教育委員会が運営にかかわる青年教室が手芸作品を展示するかたちで、半原の愛川農協2階を会場に3月20日から3日間実施されたというものです。

この文化祭・文化展は、以降毎年秋に開催されようになります。水石同好会や劇団新星など参加団体も次第に増え、書道や彫刻作品が展示されるようになり、1973（昭和48）年には、こだま俳句会が参加するなど、作品の範囲も広がります。開催会場も中津農協、高峰公民館、中津第二小学校体育館など地域を回り、展示内容も徐々に充実していきます。

町は、文化団体に補助金を交付し、自主的な活動育成への支援を行います。

文化団体相互の理解と交流が深まっていくなか、教育委員会からの呼びかけに応じるといって、受身なかたちではなく、お互いの力を結集して自主的に文化祭を開催するべきであるとの意識が生まれ、そのために、一つの組織を結成する必要性が、団体間で議論されるようになります。

こうした動きに前後し、神奈川県文化団体連盟から、統一文化団体の組織化を要請されたこともあり、いよいよ文化協会結成への気運が高まっていきます。

〔結 成〕

さて、機運の熟したのをみた教育委員会は、1975（昭和50）年2月に文化団体連絡会議を招集し、文化協会設立についての協議の場を提供します。集まった各団体の代表者の協議では、結成について異論は無く、議論は、活動目的や運営方法、規約草案の検討と、結成に向けて一挙に進んでいきます。

骨子としては、個人の組織化ではなく団体の加盟であること、加盟団体は全町的な組織であること、また、政治的にも宗教的にも不偏不党であること、常に向上への意図を持ち、かつ相応の実績を持続していること等があげられ、運営については、統合団体としての性格から総会は代議制をとること、加盟団体から1名ずつ選出された理事によって運営がなされることなどが確認されます。

その後も繰り返し協議の場が持たれ、同年11月12日、町役場分室内会議室において設立総会が開催されます。設立時の加盟9団体と役員組織は以下の通りです。

会 長	大 貫 嘉 一	スリーエークラブ
副会長	八 木 正 吾	愛川町盆栽会
〃	押 田 甲子蔵	愛川町吟詠連盟
会 計	小 島 宗 二	みなかみ短歌会
書 記	木 藤 照 雄	スイングハード
理 事	河 内 正 光	愛川町浄曲愛好会
〃	斉 藤 一 喜	みなかみ短歌会
〃	林 峰 雄	愛川町写真クラブ
〃	谷 本 幸 男	スリーエークラブ
〃	小 倉 良 久	愛川水石奇木会
〃	山 田 英 雄	愛川町吟詠連盟
〃	萩 原 福 松	こだま俳句会
〃	小 島 末 儀	愛川町盆栽会
〃	青 木 征 一	スイングハード
監 事	山 崎 翁	愛川町浄曲愛好会
〃	井 上 照二美	こだま俳句会
会 計	近 藤 勇 司	愛川町教育委員会
書 記	鴨 下 俊 道	〃

〔年 表〕

◎は新規加盟した団体、●は退会した団体

1975～1985	
1975（昭和50）年度	
11/12 〃	愛川町文化協会の設立総会＜町役場分室＞ 9団体でスタート。大貫嘉一会長 初年度は大きな活動は控え、役員会を複数回開催し、次年度からの活動の研究準備にあてる。
1976（昭和51）年度	
6/12	定期総会＜町役場分室＞
11/27～28 〃	文化祭・郷土出身芸術家作品展開催＜町立体育館＞ （後に日本芸術院賞を受賞する中村博直氏の作品を展示。）
11/28	文化講演会開催（講師:中村博直氏）＜町立体育館＞ 文化振興指導者名簿を編成する。
1977（昭和52）年度	
◎愛川町囲碁連盟が新規加盟（計10団体）	
5/8 〃	定期総会＜町保健センター＞ 文化講演会開催（講師:岡本雅堂氏）＜町保健センター＞
11/5～6 〃	町産業文化祭参加。作品展示、素人演芸会。 郷土出身芸術家作品展開催（大貫松三氏の作品を展示。）
11/6	文化講演会開催（講師:大貫松三氏）
1978（昭和53）年度	
◎文化グループ新星、愛川町民謡協会が新規加盟（計12団体）	
5/20 〃	定期総会＜町役場＞ 文化講演会開催（講師:大塚博夫氏）＜町役場＞
11/11	芸能発表会開催＜高峰小＞
11/11～12	文化展・熊坂東以作品展開催＜町立体育館＞
11/12	文化講演会開催（講師:熊坂東以氏）＜町立体育館＞
11/19	演劇発表会開催＜繊維会館＞
1/20～21	研修視察＜箱根・伊東方面 ～熱海救世美術館、三保ダムほか～＞
1979（昭和54）年度	
◎愛川さつき会が新規加盟（計13団体）	
6/2 〃	定期総会＜町役場＞ 文化講演会開催（講師:大悟法進氏）＜町役場＞
11/17	演劇芸能発表会開催＜田代小＞
11/17～18	文化展・成井弘氏作品展開催＜町立体育館＞
11/18	文化講演会開催（講師:成井弘氏）＜町立体育館＞
1/19～20	研修視察＜山梨方面 ～山梨県立美術館、たちばな山梨古美術館ほか～＞

1980 (昭和55) 年度

5/28	定期総会<町役場分室>
〃	文化講演会開催(講師:大塚博夫氏、小島秀也氏)<町役場分室>
10/25	演劇・芸能発表会開催<繊維会館>
10/25~26	文化展開催<町立体育館>
10/26	安達原玄氏仏画展開催<老人福祉センター>
〃	文化講演会開催(講師:安達原玄氏)<老人福祉センター>
1/31~2/1	研修視察<静岡方面 ~焼津魚市場、登呂遺跡ほか~>

1981 (昭和56) 年度

◎愛川山草会が新規加盟(計14団体)

6/6	定期総会<町役場>
〃	文化講演会開催(講師:福井周道氏)<町役場>
10/31	芸能発表会開催<老人福祉センター>
10/31~11/1	文化展開催<町立体育館>
11/1	文化講演会開催(講師:大貫嘉一氏)<町立体育館>
1/20~21	研修視察<伊豆稲取方面 ~長八記念館、大瀬崎ほか~>

1982 (昭和57) 年度

◎愛川華道協会、愛川川柳会が新規加盟 ●スイングハードが退会(計15団体)

6/12	定期総会<町役場>
〃	文化講演会開催(講師:中村純氏)<町役場>
10/23~24	文化展開催<町立体育館>
10/24	文化講演会開催(講師:大貫嘉一氏、小島宗二氏)<町立体育館>
1/6~3/27	町文化会館記念事業「文化展」協力<新設された町文化会館>
1/9、23	町文化会館記念事業「町民文化芸能のつどい」参加<町文化会館>
3/4~5	研修視察<房総方面 ~成田山・九十九里ほか~>

1983 (昭和58) 年度

◎愛川町合唱連盟、愛川三曲協会、愛川町舞踊協会、愛川将棋クラブが新規加盟(計19団体)

5/28	定期総会<町文化会館>
〃	新規加盟団体芸能発表会<町文化会館ホール>
10/15~16	秋季文化祭(作品展示、芸能発表会、囲碁と将棋のつどい)
〃	<町文化会館>
2/21~22	研修視察<伊香保方面 ~だるま寺、竹久夢二記念館ほか~>

1984 (昭和59) 年度

◎愛琴会が新規加盟(計20団体)

6/13	定期総会<町文化会館>
〃	文化講演会開催(講師:大矢富雄氏)<町文化会館>
9/21~23	ふるさとまつり参加 芸能発表会<町文化会館ホール>、
〃	文化展<同大会議室等>、囲碁・将棋大会等
2/20~21	研修視察<御前崎方面 ~ねむのき学園、浜岡原子力発電所ほか~>

1985（昭和60）年度

◎愛川町書道同好会が新規加盟（計21団体）

6/23	定期総会<町文化会館大会議室>
〃	創立10周年記念式典開催<町文化会館>
〃	（芸能・展示発表会、記念誌『十年のあゆみ』発行）
9/27～29	ふるさとまつり参加 芸能発表会<町文化会館ホール>、
〃	文化展<同大会議室等>、囲碁・将棋大会等
2/19～20	研修視察<伊豆方面 ～下田、波勝崎洋ランセンターほか～>

1986～1995

1986（昭和61）年度

6/25	定期総会<町文化会館大会議室>
10/3～5	ふるさとまつり参加 芸能発表会<町文化会館ホール>、
〃	文化展<同大会議室等>、囲碁・将棋大会等
2/19～20	研修視察<房総方面 ～小湊、白浜ほか～>

1987（昭和62）年度

◎愛川町歌謡協会が新規加盟（計22団体）

6/18	定期総会<町文化会館大会議室>
9/25～27	ふるさとまつり参加 芸能発表会<町文化会館ホール>、
〃	文化展<同大会議室等>、囲碁・将棋大会等
2/17～18	研修視察<房総方面 ～国立歴史民俗博物館ほか～>

1988（昭和63）年度

◎愛川茶道協会が新規加盟（計23団体）

6/17	定期総会<町文化会館大会議室>
〃	★総会アトラクション:愛琴会、吟詠連盟、合唱連盟、歌謡協会
10/7～9	ふるさとまつり（中止）
10/22	県央フォーラム<高相合同庁舎>
〃	（大貫善正氏事例発表「地域における伝統芸能の保存、伝承」）
2/22～23	研修視察<水戸、大洗方面 ～偕楽園・予科練記念館ほか～>

1989（平成元）年度

6/23	定期総会<町文化会館大会議室>
〃	★総会アトラクション:吟詠連盟、歌謡協会、民謡協会
11/3～5	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会<町文化会館ホール>、
〃	文化展<同大会議室等>、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
2/22～23	研修視察<箱根、西伊豆方面 ～成川美術館、箱根神社ほか～>

1990（平成2）年度

6/21	定期総会<町文化会館大会議室>★総会アトラクション:歌謡協会
11/2～4	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会<町文化会館ホール>、
〃	文化展<同大会議室等>、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
2/21～22	研修視察
〃	<信州、安曇野方面 ～禄山美術館、浮世絵博物館、奈良井宿ほか～>

1991（平成3）年度

◎マジック愛川クラブが新規加盟（計24団体）

6/11	定期総会<町文化会館大会議室>
〃	★総会アトラクション:マジッククラブ
11/2～4	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会<町文化会館ホール>、
〃	文化展<同大会議室等>、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
2/21～22	研修視察<静岡、焼津方面 〃梅陰寺、鉄舟寺、久能山ほか>

1992（平成4）年度

6/18	定期総会<町文化会館大会議室>★総会アトラクション:歌謡協会
10/31～11/1	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会<町文化会館ホール>、
〃	文化展<同大会議室等>、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
2/23～24	研修視察<伊豆方面 〃宝福寺、了仙寺、佐野美術館、楽寿園ほか～>

1993（平成5）年度

7/2	定期総会<町文化会館大会議室>
10/30～31	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会<町文化会館ホール>、
〃	文化展<同大会議室等>、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
2/23～24	研修視察
〃	<山梨県富士、下部方面 〃富士美術館、ふるさと芸術館、久遠寺ほか～>

1994（平成6）年度

7/1	定期総会<町文化会館大会議室>
10/29～30	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会<町文化会館ホール>、
〃	文化展<同大会議室等>、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
2/21～22	研修視察
〃	<伊香保方面 〃耳飾り館、夢二記念館、歴史博物館、高崎観音ほか～>

1995（平成7）年度

6/8	定期総会<町文化会館大会議室>
6/22～29	20周年記念文化作品展開催<町文化会館展示室等>
6/25	20周年記念式典、文化振興発表会開催
〃	<町文化会館ホール、ホワイエ、ロビー等>
〃	記念誌『20年のあゆみ』発行
11/4～5	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会<町文化会館ホール>、
〃	文化展<同大会議室等>、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
2/26～27	研修視察<三浦・鎌倉方面 〃海洋科学技術センター、白秋記念館、
〃	鎌倉シネマワールド～>
	◆大貫会長退任（10期20年5ヵ月）

1996～2005

1996（平成8）年度

- 6/7 定期総会 林峰雄氏（愛川町写真クラブ）が新会長に就任
 〃 ≪町文化会館大会議室≫
- 11/2～3 ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、
 〃 文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
- 2/20～21 研修視察≪箱根・伊東方面 ～温泉地学研究所、
 〃 伊豆ガラス工芸美術館、池田20世紀美術館、曾我梅林～≫

1997（平成9）年度

- 6/4 定期総会≪町文化会館大会議室≫
- 11/1～2 ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、
 〃 文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
- 2/25～26 研修視察≪熱海・湯河原方面 ～県立生命の星・地球博物館、
 MOA美術館ほか～≫

1998（平成10）年度

◎愛川ばら会が新規加盟（計25団体）

- 6/4 定期総会≪町文化会館大会議室≫
 〃 ★総会アトラクション:マジッククラブ、歌謡協会
- 10/3～4 ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、
 〃 文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
- 2/14～15 研修視察≪大島・湯河原方面 ～大島自然公園、芸能村、天城ほか～≫

1999（平成11）年度

- 6/3 定期総会≪町文化会館大会議室≫
 〃 ★総会アトラクション:三曲協会、歌謡協会、舞踊協会
- 10/30～31 ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、
 〃 文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
- 2/13～14 研修視察≪小田原・修善寺方面 ～小田原うめ工場、宇佐美観音ほか～≫

2000（平成12）年度

●愛川町合唱連盟が退会（計24団体）

- 6/21 定期総会≪町文化会館大会議室≫
 〃 ★総会アトラクション:マジッククラブ、歌謡協会、☆展示:さつき会
- 10/28～29 ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、
 〃 文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
- 2/25～26 研修視察
 〃 ≪清水・焼津方面 ～東海大学社会教育センター、三保の松原ほか～≫

2001（平成13）年度

- 5/28 定期総会≪町文化会館大会議室≫
 〃 ★総会アトラクション:吟詠連盟、民謡協会 ☆展示:さつき会、ばら会
- 10/27～28 ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪町文化会館ホール≫、
 〃 文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会等
- 11/1～2 研修視察≪掛川・袋井方面 ～島田市博物館、川越資料館ほか～≫
- 3/31 広報誌「文化協会だより」発行

2002 (平成14) 年度

●愛川三曲協会が退会 (計23団体)

5/29	定期総会<町文化会館大会議室>☆総会展示:さつき会
10/1~2	研修視察<甲府・石和方面 ~山梨県立美術館、恵林寺信玄館ほか~>
10/26~27	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会<町文化会館ホール>、
〃	文化展<同大会議室等>、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
3/31	広報誌「文化協会だより」発行

2003 (平成15) 年度

◎神奈川ふだん記、愛川町押花協会が新規加盟 (計25団体)

5/22	定期総会<町文化会館大会議室>
〃	★総会アトラクション:舞踊協会、歌謡協会
〃	☆展示:水石奇木会、さつき会、ふだん記、押花協会
10/20~21	研修視察<御殿場・箱根方面 ~箱根、桃源台ほか~>
11/1~2	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会<町文化会館ホール>、
〃	文化展<同大会議室等>、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
3/7	第30回立科町芸能グループ発表会視察<友好都市長野県立科町>
3/31	広報誌「文化協会だより」発行

2004 (平成16) 年度

5/17	定期総会<町文化会館大会議室>
〃	★総会アトラクション:民謡協会、マジッククラブ
〃	☆展示:水石奇木会、さつき会、ふだん記、押花協会
10/23~24	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会<町文化会館ホール>、
〃	文化展<同大会議室等>、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
11/3~4	研修視察<友好都市長野県立科町>立科町文化展への出品

2005 (平成17) 年度

●愛川川柳会が退会 (計24団体)

5/19	定期総会<町文化会館大会議室>★総会アトラクション:歌謡協会
〃	☆展示:華道協会、山草会
10/26~30	ふるさとまつり参加 文化展延長実施<町文化会館大会議室等>
10/29	30周年記念講演会「発明のこころは愛」を開催
〃	講師:中松義郎博士(ドクター中松氏)<町文化会館ホール>
〃	記念誌『30年のあゆみ』発行
10/30	文化芸能発表会<町文化会館ホール>、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、
〃	写真コーナー等
11/3~6	友好都市立科町文化展出品(スリーエークラブ)
11/16~17	研修視察<銚子方面 ~犬吠崎、国立歴史民俗博物館ほか~>

2006～2015

2006（平成18）年度

- 5/24 定期総会≪町文化会館大会議室≫★総会アトラクション:マジッククラブ
 ☆展示:写真クラブ、山草会、ばら会
 ♪
 10/28～29 ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪文化会館ホール≫、
 ♪ 文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等

2007（平成19）年度

●愛川町浄曲愛好会が退会（計23団体）

- 5/23 定期総会≪町文化会館大会議室≫☆総会展示:水石奇木会、ばら会
 10/27～28 ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪文化会館ホール≫、
 ♪ 文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
 11/1～5 友好都市立科町文化展出品（書道同好会）
 11/8～9 研修視察≪長野県戸倉上山田方面 ～善光寺、北向観音ほか≫
 ◆林会長が退任（6期12年）

2008（平成20）年度

- 5/28 定期総会 遠藤理敏氏（愛川華道協会）が新会長就任
 ♪ ≪町文化会館大会議室≫ ☆総会展示:ばら会、さつき会
 10/25～26 ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪文化会館ホール≫、
 ♪ 文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
 11/7～9 友好都市立科町文化展出品（ふだん記）

2009（平成21）年度

●愛川山草会が退会（計22団体）

- 5/28 定期総会≪町文化会館大会議室≫
 ♪ ★総会アトラクション:マジッククラブ ☆展示:ばら会、さつき会
 10/31～11/1 ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪文化会館ホール≫、
 ♪ 文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
 11/6～8 友好都市立科町文化展出品（みなかみ短歌会、俳句協会）
 11/27～28 研修視察≪群馬県榛名湖方面 ～水沢観音、竹久夢二記念館ほか≫

2010（平成22）年度

●愛川盆栽会が退会（計21団体）

- 5/26 定期総会≪町文化会館大会議室≫☆総会展示:ばら会、さつき会
 10/23～24 ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪文化会館ホール≫、
 ♪ 文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
 11/5～11/7 友好都市立科町文化展出品（水石奇木会）

2011（平成23）年度

- 5/25 定期総会≪町文化会館大会議室≫
 ♪ ★総会アトラクション:マジッククラブ ☆展示:ばら会、さつき会
 10/22～23 ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪文化会館ホール≫、
 ♪ 文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
 11/4～6 友好都市立科町文化展出品（スリーエークラブ）
 11/24 研修視察
 ♪ ≪三島、沼津方面 ～三島市郷土資料館（楽寿園）、沼津御用邸記念公園ほか≫
 ◆遠藤会長が退任（2期4年）

2012（平成24）年度

●愛川町俳句協会が退会（計20団体）

5/24 〃	定期総会 高橋篤則氏（愛川町写真クラブ）が新会長就任 ≪町文化会館大会議室≫☆総会展示:ばら会、水石奇木会
10/27～28 〃	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪文化会館ホール≫、 文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
11/2～11/4	友好都市立科町文化展出品（押花協会）

2013（平成25）年度

5/22 〃	定期総会≪町文化会館大会議室≫ ★総会アトラクション:愛琴会 ☆展示:押花協会
10/26～27 〃	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪文化会館ホール≫、 文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
11/1～3	友好都市立科町文化展出品（写真クラブ）
11/22 〃	研修視察 ≪富士河口湖方面 ～久保田一竹美術館、西湖いやしの里根場ほか≫
3/15	広報誌「文化協会だより」10年ぶりの発行

2014（平成26）年度

◎よさこいダンスチームFunnyが新規加盟 ●愛川演劇協会が退会（計20団体）

5/21 〃	定期総会≪町文化会館大会議室≫ ★総会アトラクション:マジッククラブ ☆展示:さつき会、ばら会
10/25～26 〃	ふるさとまつり参加 文化芸能発表会≪文化会館ホール≫、 文化展≪同大会議室等≫、ふるさと茶会、囲碁・将棋大会、写真コーナー等
11/7～9	立科町文化展出品（書道同好会）
3/1	広報誌「文化協会だより」発行

2015（平成27）年度

5/20 〃	定期総会≪町文化会館大会議室≫ ★総会アトラクション:吟詠連盟、民謡協会
〃	☆展示:水石奇木会、書道同好会
10/24 〃	愛川町文化協会創立40周年記念式典・講演会「能の鑑賞～羽衣～」を、 町文化会館ホールにて開催予定。

1983（昭和58）年に愛川町文化会館が開館、また、1989（平成元）年には半原公民館（ラビンプラザ）、1995（平成7）年に中津公民館（レディースプラザ）が開館し、私たち文化団体の活動や発表の場が広く確保されるようになります。

また、2003（平成15）年からは友好都市である長野県立科町との間で、ふるさとまつりでの「友好都市立科町文化展」の実施や「立科町文化展」への参加などの文化交流事業を展開し、両町の友好関係の発展に貢献しています。

また、加盟団体が行う各種の教室・講座や発表会等の開催を助成し、町民の文化活動に資するとともに、加盟団体の活動の充実と発展を支援していることも、当会の大きな役割となっています。

Memories of Culture festival

第9回 ふるさとまつり・1993(平成5)年



ふるさと茶会



文化芸能発表会

第12回 ふるさとまつり・1996(平成8)年



将棋大会



文化展



文化芸能発表会



文化展

第13回 ふるさとまつり・1997(平成9)年



文化展

第14回 ふるさとまつり・1998(平成10)年



文化展



文化芸能発表会



文化展



第21回 ふるさとまつり・2005(平成17)年

～創立30周年を記念し、文化展の期間を延長して実施～



第21回ふるさとまつり期間中に開催された
創立30周年記念文化講演会

講師：中松義郎 博士(ドクター中松氏)

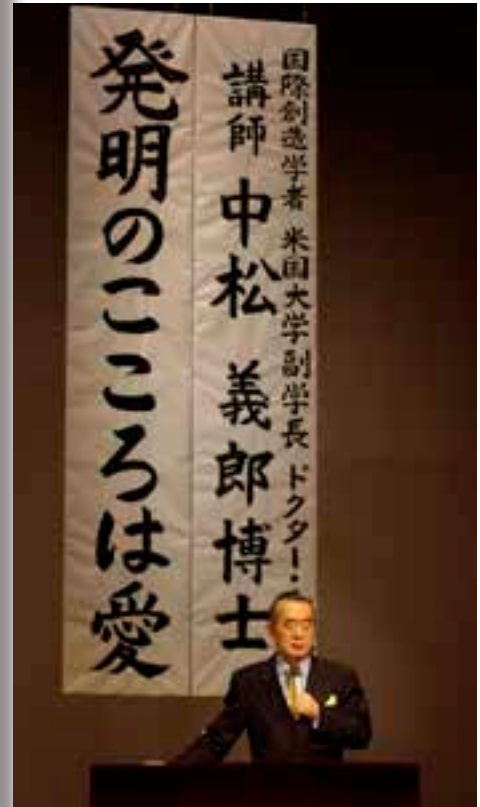
愛川町文化協会創立30周年記念
ドクター・中松講演会



発明のこころは愛

平成17年 **10月29日(土)** 午後2時開演
入場無料

場所 **愛川町文化会館ホール**
主催 愛川町文化協会・愛川町教育委員会



みなかみ短歌会

「愛川町文化協会四十周年にあたって」

私達の所属しております「みなかみ短歌会」は、昭和四十四年に小島宗二先生が立ち上げて下さった会です。この町にも大勢の短歌を趣味にもつ人達がおおり、発足当時は中津農協の二階で文化展を開いたり、春、秋の歌会はそれはそれは賑やかだったことでした。丁度その頃あちこちに、文化協会の機運が高まっていたようで、元のスリーエーの会長でもあり、みなかみの会員でもありました大貫嘉一氏などと近隣の町へ視察に行かれた話しを伺ったこともあります。勿論町の行政との折衝もあっての設立だったと思いますが、今振り返ってみますと、四十年の歴史に感慨深いものがあります。

そして、みなかみは、小島先生が歌の基本から結社誌の編集まで熱心にして、この町に伝わってきた短歌の灯を守ろうとしておいででしたが、ついに二十六年間続いた結社誌も会員の減少によって、残念ながら閉じざるをえませんでした。昔のことは知りませんが戦後の村祭りの小屋がけの中に、あれは青年団の人達の作品だったのでしょうか、俳句や短歌が展示され、大勢の人たちが集まっていた記憶がありますがその名残のようにふるさとまつりの展示が思われてならないのでした。当日は、小島先生もはりきって半切の紙に私たちの拙い歌を真剣に書いて下さるのもうれしいことでした。お歳をとられてからを色紙に替わり

ましたが、今は会員がめいめいに書くほかはなく、それぞれが持ち寄って一応の体裁を調べている状態です。

そしてみなかみには他に小島先生の指導で始まった月例会があります。短歌の何かも解らぬ私たちに手を取るよう教えていただきました。当初は、半原地区ではじめていた会が田代、春日台を経て現在は中津地区で毎月第三土曜日の午後、人数は少ないのですが、みなで、先生の教えを思い出しながら、それぞれの歌の批評をしあっております。あの当時は先生も教職の身であり私達も仕事がありましたので、長い間夜の会でしたが、休むことなく今に至っております。いまは亡き大勢の会友や、この会を暖かく見守って下さる人達に感謝しつつ、この小さな灯を点し続けたいと願っております。

最後になりましたが文化協会の発展とご活躍を記念致します。

【歴代会長】

小島 宗二 昭和44年～平成 9年

梅沢 多枝子 平成10年～現在



2000年 晩秋



2015年6月20日

愛川町写真クラブ

【結成と経過】

それは写真機と呼ばれ、誰もが手にするものではありませんでしたし、扱いにも専門的な知識や技能が必要でした。プリントするには、暗室という酢酸のにおいが充満する漆黒の闇の中で現像し、暗いオレンジ色の電球の下で引き伸ばし作業をしました。そんな時代に当会は誕生しました。

今や、カメラは1人に1台の時代になり、その機能も飛躍的な進化を遂げ、誰もが手軽に気軽にきれいな写真を楽しむことのできる時代になりました。その一方、デジタル化の進展は、写真の創作過程に新たな機能を付加させ、写真という領域の可能性を拡大させるとともに、その不確かさも増しています。

しかし、科学技術が発展しカメラがいかに高機能になろうとも、どこにどのようにカメラを向け、いつシャッターを押すかは人間が決めること。その瞬間の緊張や感動、またそこに至る過程での工夫や努力、自然の織りなす風景や人々の喜怒哀楽など様々な事象との出会い、カメラを持つことによって得られる楽しさや喜び、写真を撮ることの奥深さへの再認識、そしてそれらを共有し共感する仲間との関わり。こんな写真の持つ力に魅せられた者たちの集まりが、50余年の歴史を刻みました。

昭和36(1961)年 会員数15名で愛川町写真クラブ発足

昭和46(1971)年 神奈川観光写真連盟に入会

昭和50(1975)年 愛川町文化協会設立に加わる

初心者のための写真教室開催

産業文化祭出展

昭和51(1976)年 初心者のための写真教室開催

昭和53(1978)年 クラブ便り第1号発行

昭和56(1981)年 神報連主催中津溪谷と半原糸

の町撮影会

昭和59(1984)年 創立20周年記念写真展「今

宮ヶ瀬では」開催

平成 5(1993)年 立科町訪問「町一周駅伝大会

における立科町チーム活躍の写真を贈呈」

平成 5(1993)年 創立30周年記念写真展「ふれ

あいの足音」開催

平成 9(1997)年 国体リハーサル大会撮影

平成10(1998)年 第53回国民体育大会フェンシ

ング競技撮影

平成12(2000)年 愛川町景勝10選撮影完成

平成16(2004)年 40周年記念事業(記念式典、記

念講話、写真展:中津川が育む町「愛川は今」)

平成18(2006)年 立科町文化展出展

平成19(2007)年 マンツーマン写真教室開催

厚木写真クラブと合同撮影会

平成20(2008)年 町教委「デジカメ教室」協力

平成21(2009)年 町教委「デジカメ教室」協力

写真展「八菅神社例大祭」

平成22(2010)年 町教委「デジカメ教室」協力

写真展「三増獅子舞」

平成23(2011)年 町教委「デジカメ教室」協力

平成24(2012)年 ふれあいの村写真展(通年)
始まる
平成25(2013)年 50周年記念事業(記念誌発行、記念写真展、記念撮影旅行、祝賀会)
立科町文化展出展
平成27(2015)年 町教委「写真の撮り方教室」
協力
「写真を趣味とする人のためのPC教室」開催

【活動内容・今後の抱負】

活動3つ柱。その1は、各班が交代で担当して実施している年間5～6回の撮影会です。その2は、写真技術向上のための学習会です。各員が撮影した写真を持ち寄り、プロの写真家から指導を受けています。また、デジタル処理についての学習会もこのところ毎年実施しています。その3は、写真展です。ふるさと祭りを産業文化

祭と呼んでいた頃から、毎年欠かさず出展していますし、年度末には、写真クラブ単独の写真展を開催しています。この数年、愛川ふれあいの村や公民館祭りでも展示を続けています。

今後この3つの柱を大切に、同好の仲間と共に活動することの喜びや楽しさを感じるとともに、一人一人の写真技術の向上と創作意欲の高揚を図ることが、会の継続・発展につながると考えています。

【歴代会長】

林 峰雄 昭和36年～昭和61年3月
小島 秀也 昭和61年4月～平成 8年3月
中丸 博司 平成 8年4月～平成12年3月
高橋 篤則 平成12年4月～平成20年3月
藤本 弘 平成20年4月～現在



会員写真展 展示作業を終えて 2015.3.18 愛川町文化会館展示室

スリーエークラブ

【結成と経過】

当会は昭和43年12月、絵画同好者6名によりAIKAWA・AMATEUR・ARTの頭文字を採ってスリーエークラブと命名して立ち上げられました。

以来、運営に携わった役員、会員の努力により、研鑽と親睦の場としての当会が存続、継承されていきました。

当初から、相談役故大根田雄康氏のご指導のもと研修活動が行われてきました。

また、会員の中には中央画壇への出品者もあり、他の会員の刺激剤にもなっています。

会員は現在31名。絵のジャンルは多岐にわたり、それぞれ個性を発揮して研鑽に励んでいます。

【活動内容・今後の抱負】

年間活動は文化協会の協賛のもとで下記を定期的実施。

- ①新春絵画展（35～40点出品）
 - ②夏期絵画展（35～45点出品）
 - ③愛川町ふるさとまつり（30～35点出品）
- その他写生会（地元の風景）、一泊写生会（県内外の山間、臨海地）

以上について、活動は研鑽と親睦を図り、当会が存続、継承できるよう努力します。

当会は会員を随時募集しています。入会希望の方は文化協会事務局までご一報ください。



スリーエークラブ研修旅行みずがき山

【歴代会長】

大貫 嘉一	昭和50年11月～昭和57年
八木 正吾	昭和57年～平成 5年
新井 敏信	平成 5年～平成 8年
内野 清司	平成 8年～平成16年
佐藤 泰一	平成16年～平成22年
中村 善人	平成22年～平成24年
小田 道和	平成24年～現在



みずがき山写生現場



日帰り写生会 新松田 寄 (やどろぎ)

愛川水石奇木会

【結成と経過】

昭和30年代、高度成長時代がやってくると徐々に人々の生活にも「ゆとり」が見られるようになり、日本中に盆栽や水石のブームが駆け巡る。愛川町においても神奈川県を代表する中津川、相模川を抱え、個人的に見よう見まねで水石を趣味として楽しんでいた面々が昭和45年頃に小倉良久氏、新井陽蔵氏らを中心として自然発生的に同好会が誕生し、専門的水石技術をマスターすべく活動が開始されました。さらに愛川町文化協会の設立に伴い、水石同好会を文化協会の加盟団体に加盟すべく動きが、小島末儀氏や小島喜一氏らを中心として、同じ川原遊びで観賞価値の高い流木を趣味としていたグループと合流し、昭和49年、会長小倉良久、副会長森山昌幸、事務局新井陽蔵、会員数33名が、水石奇木の趣味の向上と併せて会員間の親睦を図ることを目的として「愛川水石奇木会」が発足しました。会員数も昭和50年には70名を超える大所帯となり、昭和53年、春の探石会ではマイクロバス2台を仕立て、山梨県大武川に繰り出したことは、今は遠い思い出であり、近年は会員数の減少傾向に悩んでいます。

【活動内容と今後の抱負】

水石・奇木とは室内で鑑賞される自然石、自然木で様々な自然美を連想し、心を山水風物詩の世界に遊ばせるものです。当会の活動は毎年春と秋に探石会を実施しま

す。今までの行き先は、大武川、阿部川、奈良井川、富士川、魚野川、天竜川と近郊の多数の河川です。探石の後は、採石した水石を川草の上に拵げ品評会を開き、研鑽の場、川原（塾）道場と化すのです。

探石会は日常の雑踏から逃れ川原に立ち、名峰を眺めせせらぎの音に心を癒されながら名石、銘木を見つけ出そうとする無心の行為であり、大きなロマンを垣間見ることができます。“一生一石”、満足な石にはなかなか巡り会えないことが、かえって無限の楽しみを誘うことになるのです。また、県内外の水石団体との交流も盛んでお互いに切磋琢磨、研鑽にいそしみ、知識、技術のレベルアップを図っております。

大自然に抱かれての探石のひとつときは、何事にも言い尽くせぬ最良のストレス解消法です。水石趣味の底辺は「自然美愛好のレジャー」にあります。自然の美しさを愛せる人なら誰にでもこの趣味に参加できると確信しております。ぜひ、声をかけてください。一緒に自然を楽しみましょう。

【歴代会長】

小倉 良久	昭和49年～昭和60年
中島 堅次郎	昭和60年～平成 7年
山田 雄三	平成 7年～平成11年
小島 喜一	平成11年～平成15年
山田 昌弘	平成15年～平成19年
穂坂 康三	平成19年～平成25年
大峽 健一	平成25年～現在



富士川探石 昭和62年秋



八海山（魚野川）平成27年春

愛川町吟詠連盟

【結成と経過】

愛川町吟詠連盟の発足はもともと楽しみながら、クラブ的な活動で詩吟を詠じ、剣舞を踊る教室が6教室（6流派）あり、流派は別々でも、同じ趣味を持つ仲間同士、各教室が集まり、話し合いの結果、一つの団体を興して行動しようと会員が一致し、昭和48年10月スタート発足を見た訳でございます。

発足当時は会員100余名でした。現在は時代の流れと共にあらゆる趣味が増えて、また、高齢化により、会員も減少し、現在会員40名で活力を統合して頑張っています。

【活動内容】

連盟も普段は、流派の教室で練習勉強に励んでおります。連盟としては、年間行っている事業・行事は、勉強会2回、発表会1回、研修旅行、町文化交流のつどいへの参加、親睦会年数回行い、終了後は吟詠を行っております。

【今後の抱負】

吟詠の基本は、腹式呼吸、腹式発声であり、神経のバランスを整える効果があるので、健康増進に最高だと言われています。

吟詠は春夏秋冬の趣です。人生や歴史を吟詠や剣舞を通し表現することで、心と身

を育てると共に会員相互の親睦と、地域、文化の交流と向上を目指しています。吟詠は声を出して吟ずるだけでなく、詩や和歌の持っている心を吟ずることで、精神修養になるのだと思います。

今後は日々精進を重ね、吟剣詩舞道、文化の高揚に寄与したいと思っています。

【歴代会長】

押田甲子藏	昭和48年10月～昭和59年 3月
山田 英雄	昭和59年 4月～平成 5年 3月
武内 秀雄	平成 5年 4月～平成13年 3月
小林 健	平成13年 4月～平成18年 3月
井上 幾雄	平成18年 4月～現在





愛川町囲碁連盟

【結成と経過】

昭和44年に愛川町囲碁連盟が発足して、今年で47年目になりました。発足当時は会員が少なく場所もなく苦勞されたと聞いています。脇島初代会長が基礎づくりに努め、中村会長の時代に、支部組織が出来ました。

昭和58年、故吉川会長のご尽力で大会も増え、徐々に会員が多くなり活発になりました。そして平成6年、故馬場会長のお力ぞえで現在の愛川町囲碁連盟の組織や活動内容が確立されてきました。

【活動内容】

- 1 連盟主催の囲碁大会（年間6回）
 - (1) 5月総会大会（各タイトル戦）
 - (2) 8月夏季大会
 - (3) 9月初心者教室大会
 - (4) 10月秋季大会（ふるさとまつり）
 - (5) 1月新年大会
 - (6) 3月春季大会（各タイトル戦）
- 2 支部活動
 - (1) 春日台支部
 - (2) 中津支部



大会風景（春日台児童館）

(3) 高峰支部

(4) 半原・田代支部

年1回4支部対抗戦を実施 各支部5名
ごとの団体戦

3 研修会

毎年11月頃、一泊研修会を行い会員の親
睦と研鑽に努めています。

4 その他

- ・ 初心者教室（春日台会館）へのフォロー
- ・ 年2回 役員会の開催（4月、7月）
- ・ 年1回 総会の開催（5月）

【今後の抱負】

- ・ 基本的には現在の活動内容の継続を進め
る事。
- ・ レディース（囲碁ガール）とジュニアの
参加推進と育成を進めていく。
- ・ 初心者教室の応援と会員を増やす活動
を進めていく。

【歴代会長】

- | | |
|-------|-------------|
| 脇島 助作 | 昭和44年～昭和47年 |
| 中村 年丸 | 昭和48年～昭和57年 |
| 吉川 好夫 | 昭和58年～平成 5年 |
| 馬場 学 | 平成 6年～平成25年 |
| 神田 政晴 | 平成26年～現在 |



初心者教室（春日台会館）

愛川町民謡協会

心のふるさと「民謡、それは、日本人の心の奥に見事にフィットした歌で、北海道から沖縄に至るまで、日本全国各地に存在し、各地域の特色豊かに歌われています。特に巷でよく唄われている民謡は、西日本のそれよりも、東日本、特に東北地方の民謡がよく歌われている様に思いますが、有名な曲を上げてみますと、北海道のソーラン節や北海盆唄、青森県のじょんがら節や八戸小唄、岩手県の南部牛追唄、秋田県の秋田おばこや秋田長持唄、宮城県の斉太郎節やさんさ時雨、山形県の花笠踊り唄や真室川音頭、福島県の会津磐梯山や新相馬節と数限りなく曲名が出てまいります。これらの民謡を三味線、尺八、鐘笛太鼓のリズムに乗って声高らかに歌い上げますと、身心共爽快となること間違いありません。皆が楽しんで唄う歌、それが民謡であります。

【結成と経過】

さて、愛川町民謡協会は昭和53年に発足し、初代会長は町議会議員の甘利英雄さんという方だったそうで、以後、37年に亘り連綿と継続され、所属会員の増減を繰り返しながらも、愛川町の文化団体の一員として、微力ではありますが地域文化の興隆に寄与できる様努力してまいりました。

【活動内容・今後の抱負】

そして、現在では、8会派83名で構成されており、各会派それぞれが技芸の向上目指して、日夜練習に励んでおります。毎年3月に、全員参加の発表会を行い、愛川町ふるさとまつり文化芸能発表会への参加も各会派でしのぎを削っております。



沖縄民謡踊り ユンタクの会社中

最後に各会派の名称・構成を御紹介します。

No.	会 派	指導者	会員数
1	勝芳会	澤田 勝芳	4名
2	松風会愛川	相原 文雄	10名
3	昭柳会	小野寺 昭男	5名
4	貞宗会	長尾 貞宗・長尾 美季	13名
5	鈴月会	佐々木 鈴月	13名
6	ユンタクの会	野原 広明	13名
7	結船	實田 薫	12名
8	竜昇会	小山 竜昇	13名

以上、8会派83名を以って、これからも愛川町民謡協会は、より、地域に密着した芸能団体として皆様方に親しまれる様、努力してまいります。

【歴代会長】

甘利 英雄	昭和53年～昭和58年（3期）
諏訪部 寸美子	昭和59年～昭和63年（3期）
伊従 清	平成元年～平成12年（6期）
和田 芳子	平成13年～平成14年（1期）
志村 清	平成15年～平成19年（3期）
大矢 カヨ子	平成20年～平成22年（2期）
長谷川 隆	平成23年～平成26年（2期）
原 啓佑	平成27年～



貞宗会社中 合唱



竜昇会社中 三味線演奏

愛川さつき会

【結成と経過】

本会は、さつきを趣味とする先輩皆様の志により「さつきの育成、研究をもって会員の親睦を図る」ことを目的に昭和52年11月27日に設立されたとのことです。設立当初は会長相馬晴義様で、119名の愛好者でスタートし、そして2年後の昭和54年に愛川町文化協会に入会させていただき、町民の皆様のご関心も高まり、昭和55年には136名へと会員数も増えました。

愛川町を花と緑で埋め、町を明るく、町の美化の方針に貢献しようとする意志をその後も引き継ぎ、今日にいたっています。

【活動内容】

会の活動として、年5回から7回、技術担当者の指導の下に講習会を行っており、主に樹形作りと剪定、曲付け、整枝、芽抜き、植え替え、新木造り等々開花の姿を想い浮かべながら誠意を込めて活動しております。また、5月下旬から6月上旬にかけて講習会で学んだ佳作を「さつき花季展」として発表し、会員はもとより町の愛好者の皆さんに観て心を癒していただいております。また、この会場に足を運べないご年配の方々には、現役時代の皆様のご苦勞に感謝の意を込め、少しでも心温まるようにと3老人ホームにさつきを飾らせていただいております。

また、花季展前後に、多種多様のさつき

の見聞を高め、育成に必要な用具、資材等購入、親睦を図ることを目的に産地視察研修会を実施しています。

秋には、2度目の楽しみである花のない緑葉と樹木の本来の優美姿木鑑賞「秋季展」をふるさとまつりに乗じて飾らせていただき、活動を経て会員が楽しみながら、さつきと共に寒い冬季を迎えながら1年を過ごしています。

【今後の抱負】

終わりに、会も発足当時から振り返りますと、バブル崩壊、長寿世代、趣味多様化等々の時代の変化の中で、39年目を迎え、ここ数年20名の会員で活動してきましたが、今年度に入り5名の会員が加入され、会が活気に満ちた活動に変わってきています。

こうした現状を踏まえ、会員一同、設立当時の諸先輩皆さんに感謝しながら会の目的であります「さつきの育成、研究、親睦」を再確認し、遠い昔よりさつきの培養と交配を重ね、改良を続けられ3,000種から4,000種とも云われる銘柄、豪華爛漫の花々を作り上げてくれた方々に敬意を表すとともに、我々さつき会も後世に繋ぐ一会員として、活動を生き甲斐とし、楽しみながら、技術の向上に努めて行きたいと思っております。

【歴代会長】

相馬 晴義 昭和52年度～昭和53年度
小島 利徳 昭和54年度～昭和61年度
中島 堅次郎 昭和62年度～平成 4年度
三好 義文 平成 5年度～平成 6年度

藺牟田 辰巳 平成 7年度～平成12年度
成井 澄雄 平成13年度～平成15年度
梅沢 正司 平成16年度～平成19年度
諏訪部 博 平成20年度～平成23年度
渡辺 修三 平成24年度～平成25年度
岡本 福寿 平成26年度～現在



栃木鹿沼産地より購入品・新木の鉢上げ講習会



1年間手塩にかけて・花季展へ自慢の花と花

愛川華道協会

【結成と経過】

昭和53年、7名の先生方により同好会として発足し、県央愛川農協にて華展を行いました。その後、結成の目的を華道を通して人格を磨く事。華道を愛し研究する事。地域文化の向上に寄与する事。として昭和57年6月に16流派、会員180名にて愛川華道協会として発足結成致しました。同年、文化協会に加盟し、初代会長に故田辺智抱先生が就任されました。昭和58年、第1回愛川華道協会展を文化会館にて開催（75名の出瓶）し、以降協会展は毎年春に開催しております。

昭和57年 愛川町文化協会加盟
 昭和58年 武相華道連盟加盟
 昭和60年 神奈川県華道連盟加盟
 平成4年 愛川華道協会10周年記念華展（111名出瓶、於町文化会館）
 平成7年 中津公民館(レディースプラザ) 竣工式祝花出瓶
 平成14年 愛川華道協会20周年記念華展（106名出瓶、於中津公民館）
 平成17年 愛川町文化協会30周年出瓶
 平成21年 愛川郷土資料館会館祝花
 平成21年より 伝統文化こども教室を開催
 平成24年 愛川華道協会30周年記念華展（70名出瓶、於中津公民館）
 現在、協会の会員は、高齢化に伴い、100

名程に減少していますが、こども教室は年々増加しており、33名が参加し取り組んでいます。

【活動内容】

- ・愛川華道協会展（毎年）中津公民館
- ・武相連盟華道展（毎年）小田急町田店
- ・神奈川県華道展（毎年）県下各市
- ・伝統文化こども教室（年10回）
- ・ふるさとまつり（毎年）
- ・中津公民館カウンターに出瓶（通年）
- ・花遊びアレンジ教室（町より依頼）
- ・成人式祝花（町より依頼）
- ・研修旅行及び新年会（各年1回）
- ・県下都市華道展挨拶（年約26件）

【今後の抱負】

当協会は休むことなく華道展を開催しています。会員相互の親睦と愛川町の自然の素材を生かし、各流派11団体が垣根を越えて協力し、地域文化の向上発展に取り組んでまいります。

また、伝統文化が低迷している昨今、こども教室を中心として、日本古来の「いけばな」の伝統とその魅力を次の世代に伝え残して行く活動を続けて行きたいと思えます。

【歴代会長】

田辺 智抱 昭和57年～昭和59年
 太田 草照 昭和60年～平成7年

遠藤 理敏 平成 8年～平成17年

原 理多寿 平成18年～平成25年

荒井 秀水 平成26年～現在



平成26年度愛川華道協会展 5月17日・18日 中津公民館



伝統文化親子教室 中津公民館

愛川町舞踊協会

【結成と経過】

舞踊協会は、33年前の昭和57年10月に、町内の舞踊を愛好する55名で発足し、同時に文化協会に加盟いたしました。

翌年、昭和58年9月には、町文化会館で第1回発表会を開催いたしました。

平成元年には、半原公民館（ラビンプラザ）の落成式に舞踊を披露させていただきました。

平成4年には、愛川賛歌の踊り方指導の依頼も引き受け、田代運動公園で開催された、愛川賛歌の歌と踊りの祭典に参加し、楽しい一時を過ごすことができました。

また、友好都市の長野県立科町「えんてこ祭り」にも参加し、愛川賛歌の歌と踊りを披露しました。立科町の踊りも指導していただき、心温まる交流ができました。

平成7年には、中津公民館（レディースプラザ）の落成式に舞踊の披露をさせていただきました。

【活動内容】

私たち協会は、毎年秋に会員が協力しあって、町文化会館で、発表会を開催しております。また、町ふるさとまつり、その他、町外で開催される各流派等の発表会にも積極的に参加し、『舞』に惜しみない情熱を注いでおります。

また、町内外でのボランティア活動は、舞台とお客様が一つになれる、ふれあいの

場、ということもあって、行く先々でも喜んでいただいております。特に、ご年配の方々からは、「踊りはもとより、着物姿がとても懐かしい」とのうれしいお言葉も頂戴しております。

平成2年から町の成人式に「着物手直しコーナー」を開設し、着物の着くずれなどのお手伝いをいたしております。長い年月の間には、成人式当日大雪の時もあり、晴れ着姿に長靴で出席された方もいました。私たちも毎年楽しみに参加させていただいています。

【今後の抱負】

一時期は200名を越える会員数であった当協会も、時代の流れと共に、今では、少人数にはなりましたが、会員一同力を合わせて活動を続けて行きたいと思っております。

会員の中には、80代の方も数名おり、見る人も踊っている人も共に力になっていきます。最近では、若い方の入会もあり、協会としては、喜ばしく思っています。

長い年月をかけて、諸先輩方や多くの皆様と築き上げてきたものを、これからも大事に続けて参りたいと思っております。

舞を通し、日本舞踊古来の伝統を学び、人の輪を大切に、そして豊かな心で、健康に感謝をしながら進んで参りたいと思っております。

【歴代会長】

成井 勝義 昭和57年10月～平成10年 3月

高橋 陽子 平成10年 4月～平成24年 3月

諏訪部 清江 平成24年 4月～現在



町文化会館で発表会 有志による幕開け踊りの愛川賛歌です



町文化会館発表会 ロビーの様子です

愛川町将棋愛好会

【結成と経過】

昭和56年夏のころ私(荻田)と渡辺さん、守屋さんと3人で将棋を指しておりました。そんな時、私が将棋愛好会という会を作ろうか、と話をしましたところ他の2人も賛同してくれました。

そして最初のころは、田代児童館で何回か将棋会を行っておりました。そしてその後、文化協会があることを知り加盟しました。同年12月ごろだったと思います。

初代会長に、田代の小島巴さんになっていただきました。

その時、有り難いことに、小島さんから将棋盤を7つほど寄贈していただきました。また、その数年後の大会でアマ王将位を取った谷川アマ六段（プロの谷川名人の兄）に参加していただき、会として大変励みになりました。



【活動内容】

- ・文化会館での大会（朝10時ごろ～午後5時まで）が月1回
- ・レディースプラザでの大会（午後1時～午後5時まで）が月1回
- ・ふるさとまつり将棋大会が年1回
- ・参加人数は平均で、文化会館での大会が22人位、レディースプラザでの大会が13人位です。

【今後の抱負】

- ・参加人数を増やすように努力すること。
- ・文化会館で現状より3名位増やしたい。
- ・レディースプラザで現状より2名位増やしたい。

【歴代会長】

- | | | |
|----|----|-------------------|
| 小島 | 巴 | 昭和56年12月～昭和57年 9月 |
| 渡辺 | 俊也 | 昭和57年 9月～昭和60年 6月 |
| 荻田 | 繁男 | 昭和60年 6月～平成27年 4月 |
| 大塚 | 三郎 | 平成27年 4月～現在 |



愛琴会

「回想」

愛琴会会長 小野澤 マサエ

愛川町文化協会40周年記念誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

初代大貫会長様の時代より、今日まで代々引き継いでこられた会長様、役員の皆様方、本当にご苦労様でした。

林会長の下で、一時期副会長を経験いたしました。他市町村に劣らぬ文化協会でありたいと願い、模索しながら座間市の文化協会と交流を持ったこともありました。

協会の継続と発展への努力は無限です。

幸い現高橋会長様には、きわめて斬新的なご発想で町文化向上のためご尽力なさっておられるお姿に、心より感謝と敬意を表します。

【結成と経過】

さて、私どもの大正琴「愛琴会」についての思い出に触れたいと思います。琴の音色に魅せられた同志が昭和57年4月、相模原大正琴本部のご指導を頂きながら39名で愛琴会を設立、翌58年町文化協会への入会を申請いたしました。大貫会長様より総会の折、大正琴を演奏披露して欲しいと御依頼があり、まだまだ人様の前で演奏できるような状態ではありませんでしたが、代表20名で確か「さくら、船頭小唄、なみだ恋」を弾いたと思います。技術的には極めて幼稚で大変恥ずかしい思いをしたことが、苦

い思い出として残っています。

会員を一人でも多く募りたく町内を奔走し、8年後の平成3年には154名となり、その後10年間は100名を超え16支部に分かれ意欲的に練習に励みました。

町内外の老人ホーム、福祉施設での慰問演奏、各種イベントでの演奏、本部主催グリーンホールでの定期演奏会への参加と活動の場を拡げてきました。

中でもNHKホールでの演奏をはじめ、横浜国際会議場、神奈川県民ホール、中野サンプラザ等への参加は全国より集結する他流の演奏に大きな刺激を受け、奮起し熱心に励んだものでした。

常にバス2台に分乗し、少々観光気分で参加したことは、忘れ得ぬなつかしい思い出となっています。

【今後の抱負】

33年間、無我夢中で励んで参りましたが、高齢化に伴い会員数は徐々に減り、ついに平成27年4月現在37名となり、誠にさみしい限りです。少人数となってしまいましたが、幸い極めて経験豊富で有能な足立原、安西、荻田を中心に役員・会員が一丸となって和気藹々と35周年に向かって精進しております。

どうぞ今後とも「愛琴会」をよろしくご指導くださいますようお願い申し上げます。

年度	新加入支部	新加入支部名・行事等	支部	会員数
昭和57年	4	三増、上熊坂、熊坂A、熊坂B	4	39
平成3年	8	三増あやめ、六倉さつき、坂本、桜台、下松台ひまわり、田代、翁靖流田代琴友会	16	154
平成7年	6	春日台第二、愛琴会あじさい、三増B、大塚、桜台第二、半原	16	106
平成11年	3	春日台琴桜会、高峰さくら、諏訪つくし	19	121
平成13年	1	つつじ	16	103
平成19年	2	しらゆり、和の会	11	66
平成20年	0	親睦交流会25周年千葉県南房総一周	10	61
平成24年	0	親睦交流会30周年手づくり記念誌「愛琴会三十年のあゆみ」作成	9	42
平成26年	1	坂本 琴の音	8	39
平成27年	現在の支部	三増、上熊坂、桜台、半原音和、つつじ、しらゆり、和の会、坂本琴の音	8	37



現会長 小野澤 マサエ



【歴代会長】



愛琴会のコサージュ

- 第1代 昭和57年4月～昭和59年3月 小野澤 マサエ
- 第2代 昭和59年4月～昭和61年3月 故 関戸 矢恵
- 第3代 昭和61年4月～昭和62年3月 故 鈴木 テル
- 第4代 昭和62年4月～現在 初代会長 小野澤 マサエ



愛琴会30周年記念親睦交流会

愛川町書道同好会

【結成と経過】

昭和五十九年、初代会長故濱崎和之氏のご尽力により創立した「愛川町書道同好会」は、書を楽しむ者の集まりとして発足しました。昨年七月、三十周年を迎え記念行事を盛大に催す事が出来ました。皆様方のお力添えがあったからと感謝の気持ちでいっぱいです。十一月には長野県立科町文化展にも数多く会員の作品を出展し、交流を深めました。

【活動内容】

この会は、年三回発表会を行っています。町文化会館の同好会展、ふるさとまつり文化展、

愛川町郷土資料館展です。その他、年一度は町内旧跡の採拓を行い、会員相互の親睦を深めたりもしています。

今年初めての企画で教育委員会主催の古民家山十邸文化講座に参加しました。親子で楽しむ書道教室は、広い山十邸の静寂な中での講座でした。小学生と保護者の初心者を対象に行いました。初日は五才から六年生の六名、保護者と一般二名の参加をいただき開催し、シーンとした大変静かな中で始まった書道教室は、用具の説明、筆の持ち方、書紙の説明の後、半紙に筆を入れました。同好会の会員の先生方の指導のもと皆真剣に筆を運んでいました。一枚書くごとに上達して行くその姿を見つめ大変嬉

しく思いました。

二回目は「色紙に書こう」がテーマでした。半紙に練習の後、同好会の九名の先生方の指導で書き上げていきました。作品は初心者とは思えない程の上達ぶりでした。終わった後、作品共々記念写真におさめました。なごやかで楽しいお教室でした。

【今度の抱負】

「書を楽しむ同好会」に心より皆様のご入会をお待ちしています。御興味のある方は、文化協会事務局までご連絡ください。

【歴代会長】

濱崎 和之 昭和59年～平成 2年

花上 学 平成 3年～平成12年

鈴木 精一 平成13年～平成15年

渡辺 勝弘 平成16年～現在



立科町文化展 平成26年11月7日(金)～9日(日)



山十郎にて 平成27年3月28日(土)



愛川町歌謡協会

【結成と経過】

昭和61年4月結成

昭和62年文化協会入会。

平成27年5月現在に至る（30年目）

会員数（110人）（8の加盟団体で構成）

【活動内容】

- ・各団体の練習は教室を借りて、毎月2回程度の練習を重ねています。会員の中には大会に出場され、優勝された方も数多くおります。
- ・年2回、春と秋に発表会を開催しています。春は愛川町文化会館ホールにて開催し、秋は町内のホール及び農村環境改善センターにて開催しています。会員の皆様の日頃の練習の成果を発表します。
- ・町のふるさとまつり「文化芸能発表会」に参加
- ・町内の祭り（半僧坊、中津神社）及びイベントに招かれています。
- ・町内の老人ホームの慰問に招かれています。ミノワホームに慰問し、入居者にとっても喜ばれ、とても励みになりました。

【今後の抱負】

- ・新規会員入会の促進や拡大に努めます。
- ・昨年夏に歌謡協会として初めて町内の老人ホームの慰問を経験させていただきました。とても喜ばれましたので、今年は訪問する回数を増やすことを実行させていただきます。

【歴代会長】

大貫 義正 昭和61年～平成19年 3月

金子 哲夫 平成19年 3月～平成26年 3月

田中 美代子 平成26年 4月～現在



町内の老人ホーム慰問風景



町内の老人ホーム慰問風景



研修旅行にて

愛川茶道協会

「愛川茶道協会の歩み」

柴田 明子

昭和63年、初代足立原美枝子会長の許、愛川茶道協会を15人の理事、表千家、裏千家、宗徧流、庸軒流、大日本茶道学会、黄檗弘風流の6流派で結成し、同時に文化協会に加盟させていただきました。

以来、文化会館での雛の茶会、山十郎での流派の茶会、レディースプラザの柿落としの茶会など、地域文化に貢献してまいりました。

四季折々の素晴らしい愛川の自然に包まれ、心豊かな人生を育み、感動の日々を送ることを心がけ、春のつつじまつりの添え釜茶会はつつじが咲き誇るあいかわ公園を借景に、心をこめた一服の茶を200名近い町民の方々に楽しんでいただいております。また、秋のふるさとまつりでは、各団体の方々と交流し茶席を設け、一碗を通じて話に花が咲き、1年・1度の出会いに喜びを感じております。

現在理事が7名ですが、「継続は力なり」を信じ、茶の心「和敬静寂」の精神を大切に精進して参りたいと思っております。

「おもてなしの心で」

中山 民子

茶道協会では、愛川町の最も大きなまつりである春の「つつじまつり」、そして秋の「ふるさとまつり」に、それぞれの先生の

お社中が力を合せ、おいしいお茶とお菓子をお出しし、町民の皆さんとの交流を図っています。

最近ではまつりの茶席を楽しみに待っている方も多くなりました。

皆さんは、茶道と聞いてどのようなイメージを持たれますか。茶道となると作法が難しい堅苦しいもので、現代の生活とはかけ離れていると思われているのではないのでしょうか。

一昨年のオリンピック招致での「お・も・て・な・し」という滝川クリステルさんの言葉が世界中に話題になりました。まさに、茶道の中心はおもてなしの心です。このお茶の気持ちが家庭や職場にあったら、私たちの生活はどんなに明るく穏やかになることでしょうか。

【歴代会長】

足立原 美枝子 昭和63年 5月～平成 9年 3月

小 島 政 子 平成 9年 4月～平成19年 3月

成 井 一 江 平成19年 4月～平成23年 3月

柴 田 明 子 平成23年 4月～現在





つつじまつりに全員で



ふるさとまつり茶会

マジック愛川クラブ

【結成と経過】

○昭和59年1月

前年秋に愛川町教育委員会主催で行われた「マジック講習会」の参加者を中心に、「マジック愛川クラブ」を結成する。講師は、県央マジック連盟顧問の落合重幸氏を招き、現在も指導を仰いでいる。その後、会員の技術が向上し、ボランティア活動を通して、地域の方々にマジックを楽しんでもいただける機会も増えた。また、海老名マジッククラブとは兄弟クラブとしての交流があり、合同の講習会を開催したり、ボランティア活動をお互い手助けしている。

○平成元年2月

愛川町ボランティア連絡協議会の設立に参加し、加盟団体として活動の一端を担っている。会員が、役員としてのその任を負

い、愛川町の福祉団体としても活動の場をもっている。「ふれあい広場」「ボランティアの集い」等は、会員も毎年楽しみにしている行事である。

○平成2年3月

県央マジック連盟の設立に参加し、秦野、厚木、海老名、座間等のクラブと共に活動をしてきている。厚木市文化会館で行っているマジックフェスティバルは、平成27年11月18日の開催で通算16回になり、連続出演している。

○平成3年6月

愛川町文化協会に加盟。町の文化団体としての活動の場も広がり、ふるさとまつりで行われる「文化芸能発表会」には、毎年出演し会員の励みにもなっている。



第4回マジックフェスティバル「南京玉すだれ」

○平成25年10月19日

創立30周年記念・第4回マジックフェスティバルを開催する。

マジック愛川クラブ主催のマジックフェスティバルは、第1回を平成8年2月18日、第2回（創立15周年記念）を平成11年2月14日、第3回を平成14年2月24日に、愛川町文化会館で開催してきた。諸般の都合で、開催が中断していたが、30周年を記念して第4回を愛川町文化会館で開催することができた。来場者の皆さんに大変好評をいただいたイベントになった。

【活動内容】

○例会

毎月第1、3土曜日に、愛川町文化会館で例会を行っている。身近な新聞紙やハンカチ、シルクやトランプ等を使ったマジックから、専用の道具を使ったものまで数多くのマジックを手がけている。

○ボランティア活動

子ども会行事、自治会行事、小学校や幼稚園での行事、福祉団体の行事、最近ではミニデー等で、マジックを披露して喜ばれ

ている。シルクや花などを出現させるプロダクションマジック、ハンカチや新聞紙、コップ等身近な物を使ったサロンマジック、また、南京玉すだれや腹話術を得意とする会員もいて、人気を博している。1年で、25～30回の出演依頼がある。

○マジック入門講座

昭和62年から隔年で「マジック入門講習会」を開催し、平成26年度で16回を数えた。この講座から、マジックの理解者や愛好者が増えた。

【今後の抱負】

本クラブの会員も高齢化が進んでいるが、元気で末永く皆さんに喜んでいただけるよう研鑽していきたい。また、ボランティアのすばらしさをPRするとともに会員が増えるよう広報活動をしていきたい。

【歴代会長】

阿部 久蔵 昭和59年 1月～昭和62年 3月

井上 桂 昭和62年 4月～現在



会員懇親会

愛川ばら会

【結成と経過】

昭和20年代中ごろ当時半原在住の小島利徳氏、小島義明氏、井上雅夫氏の三人が半原ばら会として活動を始め、栽培技術を競うコンテストでは国内外のタイトルを多数獲得し受賞したタイトルは千数百に及びました。この三人は今でも公益財団法人日本ばら会の歴史上重要な人物で中興の祖と言われています。素人だった三人が指導して頂いたのは当時町田にお住まいだった梅田美樹氏でした。

1980年ごろになると前会長の小倉正久氏など数名が加わり愛川ばら会の前身としての活動を始めました。

1990年代に入ると徐々に仲間が増え1997年正式に「愛川ばら会」として発足し愛川町文化協会にも加盟しました。初代会長は小島利徳氏。

【活動内容・今後の抱負】

2月、4月、6月、8月、11月には各季節ごとの栽培講習会を、5月と10月にはバラ展(ローズショウとコンテスト)を、5月下旬から6月上旬には各地のバラ園見学研修ツアーを行っている。

定例総会は5月のバラ展期間中にコンテスト表彰式と同時に行っています。

栽培技術は勿論、肥料、用土、活性剤などは日進月歩しているので常に中央ばら会、全国各地のばら会と連絡を密にし、情

報の収集・提供をしている。

誰にでも簡単に育てられる栽培講習会、誰にでも簡単に参加できる展示会をめざし、庭に咲いた一輪のバラ・コーナーや香りのコンテスト、小品の自由アレンジメント・コーナーなどを行っていますが、より多くの人に参加できるようにこれからも工夫をしていきたいと思ひます。

会員の協力により国道412号沿線に数か所バラのある花壇を作っています。また、文化会館事務所の前庭にも数本のバラを植えていますのでぜひご覧ください。

今後も町内のあちこちにバラを植え、多くの皆さんにバラを楽しんでいただきたいと思っています。



【歴代会長】

小島 利徳 平成 9年～平成12年

小倉 正久 平成12年～平成24年

小島 信章 平成24年～現在



秋のばら展



春のばら展



山梨県 ハイジの村

神奈川ふだん記

「記録の花は文化の花」

【結成と経過】

本誌の発祥は東京・八王子で、昭和52年に足立原美枝子がこの愛川町に創設した。のち同家の足立原美智子が引き継ぎ現在に至る。

名称は普段着からきたふだん記運動グループで、文章を書くことは難しいことではない。気軽に書けば書けるを貫いて、飾らない、名文美文のマネをしないで、人生記、旅行記、生活記、自分の歴史、地域史などをそれぞれが記録して行くことが大切であり、これが主な目的である。「書いて語りて記録の花は文化の花」というキャッチフレーズもある。

いま文章はパソコンで打つという時代に入っているが、紙に書くことを貫いているふだん記の貴重な存在は各方面でしきりと評価されている。人間の書く読むの二つの基本的作業は、脳の活性化につながるという医学的見地もあって、きわめて重要な価値要素を包含して、この記録運動は進行している。

平成27年でその活動は40年間にわたり、この5月に80号を発行した。

【活動内容・今後の抱負】

年2回（春と秋）、約300頁の会員の書いた「やまゆり」という機関誌を発行。これに基づいて集いが開かれ、機関誌「やまゆ

り」を手にし、そこに書いた自分と他の仲間との間に「生きている喜びを感じる」という意見もいっぱい。

大切なモットーは、入会は投稿したとき、退会は自由。書くべき規定はありませんが、政治・宗教・誹謗中傷文はお断りしています。

平成16年には「愛川町の昔と今」1号（222頁）を、同20年にはその2号（280頁）を発行。地域史を書いて高く評された。

代表の足立原美智子は、本業である裏千家の正教授で茶道とふだん記に因んだ茶会を開いていて、年の瀬の「あわせんざい茶会」は平成15年から現在まで続き、美智子代表の掲げる地域の文化運動の一環として行っている。

いま会員数は約140名が書いている。

誰でも書ける記録は文化、社会の花であり、自分の花である。

自分の生きた道の中に諸々の思い、母のこと父のこと、子供や孫のこと、悲しみや喜び、あの日あのときを必ず書いて下さい。書けば必ず書けます。あなたの新しい発見。

記録に残す。記録は力。

【歴代会長】

足立原 美枝子 昭和52年～平成10年

足立原 美智子 平成10年～現在



平成27年5月4日 餅つき流しソーメン大会 於 代表 足立原宅



喜びの「やまゆり 79号」発行日 平成26年12月18日 (木)

愛川町押花協会

愛川町文化協会設立40周年に際し、心より御祝い申し上げます。

今年、押花協会は、町文化協会加入13年目を迎えました。

【活動内容】

これまでの主な活動として、ふるさとまつりの文化展へ毎年の出品、愛川町郷土資料館へ毎春の作品展示、愛川町と友好都市である立科町の文化展へ平成17年と24年の2度の出品、あいかわ楽習団の講師を招き、自然観察と植物採取を兼ねた野外植物散策会、海底和紙の紙漉き体験会、浜名湖花博覧会への研修旅行、幕山の梅林散策、鎌倉の紫陽花散策、県立七沢公園散策、他の散策や勉強会などの研修を行い、親睦を深めてまいりました。

また設立5周年と10周年の節目に記念作品展の開催や花菜ガーデン、鎌倉芸術会館などの様々な作品展に出品するなど積極的に創作活動も行っています。

そして押花の普及や奉仕活動を目的として、町内の老人ホーム慰問を行い文化祭作品の押花制作のサポートをしたり、公民館事業の協力や公募により、夏休みとクリスマスの親子押花教室や押花体験教室などを行ってきました。

参加された多くの方々に「本当の植物ですか？」本や新聞紙に挟んで作ったことがあるけど、時間が経つと色が変わってしまったのに、こんなに綺麗に作れてうれし

い！」「押花って楽しいです。ありがとう！」などの感想を頂き、活動の励みにもなっています。

われわれ押花愛好者が集うたびに、花、草木、野菜、くだものなど、さまざまな植物を美しく押花にする為の情報交換が始まります。また話題は、庭や野に咲く四季の草花、旅の先々に自生する植物に心惹かれたり、印象に残る風景を思い返して語り合うなど、互いの作品を鑑賞する中で、年代（30歳代から80歳代の35名）を超えた相互理解も生まれ、和やかで楽しい時間を共有しています。

【今後の抱負】

今後も自然の恵みに感謝して、制作する喜びを大切にしながら、押花の普及に努めたいと思います。

尚、押し花に興味のある方、年齢性別を問わず会員募集しています。押花協会主催の体験教室にもぜひご参加下さい！

『Let's try おしばな』 ぜひお待ちしております。

【歴代会長】

小野沢 純子 平成14年 4月～平成26年 3月

近堂 玖美子 平成26年 4月～現在



押花カレンダー作り



草花や果物など様々な植物で制作した押花額



よさこいダンスチームFunny

【結成と経過】

【平成12年】 チーム結成

〔愛川キッズビクス〕の代表を務める田中陽子と同じく講師の萩原智恵子が更なるダンス発表の場を広げるべく、キッズメンバーより有志を募り、よさこいチーム〔ファニーガール〕を結成。

町田・夢舞生ッスイ祭へ十数名で初参加。

【平成13年】 チーム改名

踊り子の親族等の加入に伴い、踊り子メンバー増員。

〔ファニーガール〕から、〔よさこいダンスチームFunny〕へと改名。

【平成14年】 班行動開始

更なる踊り子メンバー増員に伴い、チーム統率及び祭会場内でのマナーの徹底を図るため、1班10名程度の班行動を開始する。本年、会員数は過去最大の70名前後となる。

【平成15年】 運営役員会発足

運営役員を定め、団体の統率に務める。

【平成18年】 代表者変更

代表者・田中の脱会に伴い、同チームダンス講師・萩原へチーム代表を委任する。

【平成21年】 観光親善大使任命

愛川町観光協会より、初代観光親善大使に任命され、県内外にて愛川町のPRに努める。

【平成26年】 愛川町文化協会加入

愛川町文化協会監事・沼田穰氏の勧めに

より、愛川町文化協会へ加入。地元・愛川町周辺のイベントには更に積極的に参加する。

【平成27年】

年間平均17ヵ所のイベントで活動中・現在に至る。

【活動内容・今後の抱負】

私達はよさこい踊りを通じて、更なる地域の活性化と健康で豊かな文化・交流に寄与することを目的として活動しております。

また、平成21年度より愛川町観光親善大使という大役を担い、県内外のよさこい祭りにも多数参加しております。

他チームや地域の皆様との交流を図り、水と緑の雄大な自然に包まれた私達の町、この愛川町の文化を、今後も広くアピールして行きたいと思っております。

祭りは人と人とが交流する場であり、私達は笑顔で元気に舞い、観て下さる観客の皆様も笑顔になり・・・そんな交流の輪が広がることが最大の魅力です。

文化を通し、祭りを通じて、全ての人に素晴らしい出会いがあることを願っています！

【歴代・代表】

田中 陽子 平成12年～平成17年

萩原 智恵子 平成18年～現在



2015年7月 海老名ピナウォークよさこい



2014年8月23・24日 原宿・表参道元気祭 スーパーよさこい

愛川町文化協会規約

(名称)

第1条 この会は、愛川町文化協会と称する。

(事務所)

第2条 この会は、事務所を愛川町教育委員会内におく。

(組織)

第3条 この会は、町内に所在する文化団体によって組織する。

(目的)

第4条 この会は、町内の文化団体相互の連絡調整をはかり、町民の健全なる文化教養の向上とその振興、発展を期し、もって町民文化に寄与することを目的とする。

(事業)

第5条 この会は、前条の目的達成のため、次の事業を行う。

- (1) 町民文化の向上に関する方策の調査研究
- (2) 加盟団体の強化、相互の親睦
- (3) 各種文化事業、講習会等の開催
- (4) 県文化団体および他市町村の文化団体との交流
- (5) 文化に関する宣伝、普及ならびに奨励
- (6) その他この会の目的達成に必要な事業

(役員)

第6条 この会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 会計 2名
- (4) 書記 2名
- (5) 理事 若干名
- (6) 監事 2名

2 前項に定めるもののほか、顧問若干名を置くことができる。

(役員を選出)

第7条 理事は、各加盟団体から1名ずつ選出する。

2 会長、副会長、会計、書記および監事は、理事または加盟団体構成員の中から役員会の協議によって選出する。ただし、会計、書記各1名は、教育委員会職員をもってあてる。

3 会長、副会長、会計、書記および監事が理事の中から選出された場合、当該加盟団体は、これに代わる理事を選出するものとする。

4 会長は、役員会の同意を得て、顧問若干名を委嘱することができる。

(役員の仕事)

第8条 会長は、この会を代表して会務を総理し、役員会の議長となる。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代理する。

3 会計は、この会の経理を掌理する。

4 書記は、この会の庶務を掌理する。

5 監事は、この会の会計を監査する。

6 理事は、この会を掌理する。

7 顧問は、重要事項につき会長の諮問に応ずる。

(役員の仕事)

第9条 役員の仕事は2年とする。ただし再任を妨げない。

2 補欠役員の仕事は、前任者の残任期間とする。

(会 議)

第10条 会議は、総会および役員会とし、すべて会長がこれを召集する。

2 総会は、この会の決議機関であり、各加盟団体2名ずつの代議員をもって構成する。役員会は、この会の執行機関である。

3 総会は、年1回開かなければならない。ただし、必要あるときは臨時に開くことができる。

4 役員会は、会長、副会長、会計、書記、理事および監事をもって構成する。

(経 費)

第11条 この会の経費は、加盟団体の分担金、その他の収入をもってこれを充てる。

2 分担金の額は、各団体4,000円とする。ただし、必要に応じて臨時に徴収することができる。

(会計年度)

第12条 この会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(予算および決算)

第13条 この会の予算は毎会計年度開始前に役員会で行い、決算はその会計年度終了後すみやかに監事の監査を経て、それぞれ総会の承認を得るものとする。

(加 盟)

第14条 この会に加盟し得る団体は、次のような団体であってはならない。

- (1) 政治的宗教的な団体
- (2) 広域的な会員組織を欠く団体
- (3) 会員数が20名に満たない団体
- (4) 活動実績(6ヶ月以上)をもたない団体

第15条 この会に加盟しようとする団体は、その代表者により次の書類を提出し、役員会の議をもって承認するものとする。ただし、総会に報告しなければならない。

- (1) 加盟申込書
- (2) 事務所所在地
- (3) 規 約
- (4) 加盟団体組織一覧表
- (5) 役員名簿
- (6) 当該年度事業計画
- (7) 当該年度予算書
- (8) 前年度事業報告書
- (9) 前年度収支決算書

第16条 この会に加盟しようとする団体が第14条、第15条各項の条件に満たない場合でも、その団体が本町にとって、社会的、文化的に貢献度が高いものであるときは、特例として役員会の議を持って加盟を認めることができる。ただし、総会に報告しなければならない。

(脱 退)

第17条 この会の脱退は、次のとおりとする。

- (1) 加盟団体が脱退しようとするときは、脱退届を会長あて提出し、役員会の承認を得なければならない。
- (2) 加盟団体として不適当と認めるときは、役員会の承認を得て脱退させることができる。ただし、総会で報告しなければならない。

(加盟および脱退の時期)

第18条 加盟および脱退は、年度のきりかえの時をもってする。

(規約改正)

第19条 本会の規約改正については、役員会で審議し、総会の承認をもって成立する。

(表彰)

第20条 この会は、別に定める表彰規程により協会の目的に対し功績のあった者及び団体に対して表彰する。

附 則

- 1 この規約は、昭和50年4月1日から施行する。
- 2 この規約は、昭和57年6月12日、その一部を改正し、同日から施行する。
- 3 この規約は、平成2年6月21日、その一部を改正し、同日から施行する。
- 4 この規約は、平成8年6月7日、その一部を改正し、同日から施行する。
- 5 この規約は、平成12年6月21日、その一部を改正し、同日から施行する。
- 6 この規約は、平成19年5月23日、その一部を改正し、同日から施行する。
- 7 この規約は、平成20年5月28日、その一部を改正し、同日から施行する。

愛川町文化協会役員名簿

(任期：平成26年4月1日～平成28年3月31日)

職名	氏名	所属団体
会長	高橋 篤 則	愛川町写真クラブ
副会長	原 理多寿	愛川華道協会
	成瀬 和 治	マジック愛川クラブ
会計	柴田 明 子	愛川茶道協会
書記	渡辺 勝 弘	愛川町書道同好会
監事	沼田 穰	神奈川ふだん記
	神田 政 晴	愛川町囲碁連盟
理事	富田 茂 子	みなかみ短歌会
〃	藤本 弘	愛川町写真クラブ
〃	小田 道 和	スリーエークラブ
〃	大峽 健 一	愛川水石奇木会
〃	井上 幾 雄	愛川町吟詠連盟
〃	鳥山 英 昭	愛川町囲碁連盟
〃	長谷川 隆	愛川町民謡協会
〃	岡本 福 寿	愛川さつき会
〃	荒井 喜久枝	愛川華道協会
〃	諏訪部 清 江	愛川町舞踊協会
〃	萩田 繁 男	愛川町将棋愛好会
〃	萩田 允 子	愛 琴 会
〃	清水 チカ子	愛川町書道同好会
〃	田中 美代子	愛川町歌謡協会
〃	今井 ふく江	愛川茶道協会
〃	高村 敏 雄	マジック愛川クラブ
〃	木藤 孝 一	愛川ばら会
〃	足立原 美智子	神奈川ふだん記
〃	近 堂 玖美子	愛川町押花協会
〃	萩原 智恵子	よさこいダンスチーム Funny
顧問	遠藤 理 敏	愛川華道協会

事務局	小宮 侑 史	教育委員会スポーツ・文化振興課
	草野 翔 太	〃

愛川町文化協会 創立40周年記念誌

40年のあゆみ

2015年10月1日 発行

発行 愛川町文化協会

印刷 株式会社日相印刷